

京都市消防局訓令乙第7号

各 部

防 災 危 機 管 理 室

消 防 学 校

各 消 防 署

京都市消防団員の服制に関する規程の一部を次のように改正する。

平成22年1月8日

京都市消防局長 三 浦 孝 一

題名を次のように改める。

京都市消防団員服制規程

第1条中「京都市消防団員の服制に関する規則第2条第2項」を「京都市消防団員服制規則（以下「規則」という。）第3条」に改める。

第2条を次のように改める。

（服制に係る制式等）

第2条 規則第2条第1項に規定する消防団員の服制に係る制式、地質その他の服制に関する細目は別表第1のとおりとする。

第3条を第4条とし、第2条の次に次の1条を加える。

（消防局長が定める服制）

第3条 規則第2条第2項に規定する消防団員の服制は、別表第2のとおりとする。

別表を次のように改める。

別表第 1 (第 2 条関係)

合 冬 帽	地 質	男性用は、黒色の布地とし、女性用は、暗い濃紺色の布地とする。
	制 式	男性用は、円形とし、前ひさし及びあごひもは、黒色の革製とする。 あごひもの両端は、帽の両側においてあごひも留め用消防団き章（金色の金属製）各 1 個で留める。 女性用は、円形つば型（ハイバック式）とし、帽の腰周りに暗い濃紺色のリボン巻く。 形状及び寸法は、第 1 図 1 (1)及び(2)のとおりとする。
	帽 章	男性用は、帽の前面に、黒色の布地の台地に金色の消防団き章を金色のモール製の桜模様で囲んだ標章を付ける。 女性用は、帽の前面に、黒色の布地の台地に銀色の消防団き章を銀色のモールで囲んだ標章を付ける。 形状及び寸法は、第 1 図 2 のとおりとする。
	周 章	帽の腰周りには、黒色のなな子織を巻く、副分団長以上は、階級に応じ、金色の平しま織線を巻く（男性用に限る。） 形状及び寸法は、第 1 図 3 のとおりとする。
夏 帽	地 質	濃紺色の布地
	制 式	男性用は、円形とし、前ひさし及びあごひもは、黒色のビニール製とする。 あごひもの両端は、帽の両側においてあごひも留め用消防団き章（金色の金属製）各 1 個で留める。 地紙は、藤づる編みとする。 女性用は、円形つば型（ハイバック式）とし、帽の腰周りに濃紺色のリボン巻く。 形状及び寸法は、合冬帽と同様とする。
	帽 章	合冬帽と同様とする。
	周 章	帽の腰周りに、黒色のなな子織を巻く（男性用に限る。）
活 動 帽	地 質	紺色の布地
	制 式	野球帽型とし、前ひさしは、地質と同様とする。 帽の前面に、「VOLUNTEER FIRE CORPS」の文字と図柄を金糸で、「KYOTO」の文字を銀糸でししゅうする。 形状は、第 2 図のとおりとする。
保 安 帽	地 質	白色の硬質地
	制 式	かぶと型とし、あごひもを付ける。 形状は、第 3 図 1 のとおりとする。
	帽 章	帽の前面に、赤色の台地に白色の消防団き章を付け、後面には所属する消防団又は分団を明示する文字を入れる。 形状及び寸法は、第 3 図 2 のとおりとする。
	周 章	帽の腰周りに、階級に応じ、1 条、2 条又は 3 条の赤色の線を入れる。

			形状及び寸法は、第3図3のとおりとする。
合 冬 服	上 衣	地 質	男性用は、黒色の布地とし、女性用は、暗い濃紺色の布地とする。
		制 式	男性用は、剣襟とし、女性用は、きざみ折り返し襟とする。 消防団き章を付けた金色の金属製ボタン3個を1行に付ける。 ただし、女性用は銀色の金属製ボタンとする。 前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、胸部の左に1個のポケットを付ける。 形状及び寸法は、第4図1(1)ア及びイのとおりとする。
		そ で 章	表半面に1条、2条又は3条の金色のしま織線をまとう（男性用に限る。）。 形状及び寸法は、第4図1(2)のとおりとする。
	ズ ボ ン	地 質	上衣と同様とする。
		制 式	長ズボンとし、両もも及び後方の左右に各1個のポケットを付け、後方のポケットは、ボタンで留める。 両脇の縫い目に幅15ミリメートルの黒色のなな子織の側章を付ける（男性用に限る。）。 すそは、シングルとする。 形状及び寸法は、第4図2のとおりとする。
	ネ ク タ イ		男性用は、黒色にオレンジ色のしま模様を斜めに入れた布地とする。 女性用は、暗い濃紺色にオレンジ色のしま模様を斜めに入れた布地とする。
	ワ イ シ ャ ツ		白色の布地で、長そでとする。
ブ ラ ウ ス		白色の布地で、長そでのシャツブラウスとする。	
バ ン ド		黒色のナイロン製とし、銀色のバックルを付ける。 形状及び寸法は、第4図3のとおりとする。	
夏 服	上 衣	地 質	淡青色の布地
		制 式	開襟とする。 地質と似た色のボタン6個を1行に付ける。ただし、女性用は、白色のボタン5個とする。 男性用は、胸部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、当該ふたに1条のオレンジ色の線を入れ、ボタンで留める。 女性用は、胸部の左右に各1個のポケットを付け、1条のオレンジ色の線を入れる。 そでは、長そで及び半そでの2種類とし、長そでのそで口は、ボタンで留める。 形状は、第5図1のとおりとする。
	ズ ボ ン	地 質	濃紺色の布地
		制 式	長ズボンとし、両もも及び後方の左右に各1個のポケットを付け、後方左側のポケットは、ふた付きポケットとし、ボタンで留める。 すそは、シングルとする。

			形状は、第5図2のとおりとする。	
スカート	地質	濃紺色の布地		
	制式	キュロット型とし、前ファスナー開きとする。 形状は、第5図3のとおりとする。		
バンド			合冬服と同様とする。	
活動服	上衣	地質	紺色の布地	
		制式	<p>カッター襟型（ワイシャツカラー）とし、掛け合わせにボタン7個を1行に付ける。</p> <p>胸部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、マジックテープで留める。</p> <p>そでは、長そでとし、そで口は、ボタンで留める。</p> <p>後面に「KYOTO CITY 消防団」の文字をオレンジ色で入れる。</p> <p>左袖上腕部にエンブレムを付ける。</p> <p>形状は、第6図1のとおりとする。</p>	
	ズボン	地質	上衣と同様とする。	
		制式	<p>長ズボンとし、両もも及び後方の左右に各1個のポケットを付け、後方のポケットは、マジックテープで留める。</p> <p>すそは、シングルとする。</p> <p>形状は、第6図2のとおりとする。</p>	
	活動用下衣	長そで	地質	濃紺色の布地
			制式	<p>丸首襟とする。</p> <p>そで口は、ゴム織とする。</p> <p>形状は、第6図3(1)のとおりとする。</p>
		半そで	地質	長そでと同様とする。
			制式	<p>V首襟又は丸首襟とする。</p> <p>形状は、第6図3(2)のとおりとする。</p>
	活動服用バンド			<p>紺色の布地とし、銀色のバックルを付ける。</p> <p>形状及び寸法は、第6図4のとおりとする。</p>
	エンブレム			<p>オレンジ色の台地に、薄茶色の糸で縁取りを、オレンジ色、茶色及び白色の糸で図柄を、白色の糸で「volunteer fire corps」「KYOTO」の文字及び所属する消防団名をアルファベットでそれぞれししゅうする。</p> <p>活動服の左上腕部にエンブレムを付ける。</p> <p>形状及び寸法は、第6図5のとおりとする。</p>
所属章			<p>地質と同様の台地に、所属する分団を明示する文字をオレンジ色でししゅうする。ただし、団長及び副団長は、所属する消防団を明示する文字とする。</p> <p>活動服の左胸に所属章を付ける。</p> <p>形状は、第6図6のとおりとする。</p>	

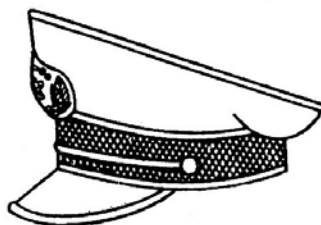
靴	活 動 靴		黒色の革製とする。
	ゴ ム 長 靴		黒色のゴム製とする。
	短 靴		黒色の革製又は合成皮革製とする。
	半 長 靴		黒色の革製又は合成皮革製とする。
階 級 章	団 副 団	長 長	黒色の金属製の台とし、上下の両縁及び中央に金色の平織状の線を施し、中央に階級に応じ、2個又は3個の金色の消防団き章を付ける。ただし、活動服用については、人工皮革製の台とする。形状及び寸法は、第7図のとおりとする。
	分 副 部 班 団	長 長 長 長 員	黒色の金属製の台とし、2本の金色の平織状の線を施し、中央に階級に応じ、1個、2個又は3個の金色の消防団き章を付ける。ただし、活動服用については、人工皮革製の台とする。形状及び寸法は、第7図のとおりとする。
防 寒 衣	男 性 用	地 質	濃紺色の布地
		制 式	兼用襟（セミステン形）とし、掛け合わせにファスナー及びホック5個を1行に付ける。 胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付ける。 前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付ける。 そでは、長そでとし、そで口の内側には、地質と似た色のゴム織布を付ける。 胴には、バンドを付ける。 形状は、第8図1(1)のとおりとする。
		胸 章	左胸の上部に、地質と似た色の台地に周囲を銀色、中央を金色、その他の部分を黒色で織った消防団き章を付ける。 形状及び寸法は、第8図1(2)のとおりとする。
	女 性 用	地 質	紺色の布地
		制 式	ハーフコート型とする。 巻き襟とし、消防団き章を付けた金色の金属製ボタン各2個を2行に付ける。 前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付ける。 そでは、長そでとする。 形状は、第8図2のとおりとする。
		胸 章	男性用の防寒衣の胸章と同様とする。
男 性 用	上 衣	地 質	白色のビニール地
		制 式	2枚襟式で、頭きんを付ける。 掛け合わせに地質と似た色のボタン5個を1行に付ける。 前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付ける。 そでは、長そでとし、そで口の内側には、手首布を付ける。 肩当て及び肩章を付ける。 左の肩先の下部に腕章つりを付ける。 形状は、第9図1(1)のとおりとする。
			左胸の上部に、周囲は銀色、中央は金色、その他の部分は黒色

雨 衣		胸章	の消防団き章を付ける。 形状及び寸法は、第9図1(2)のとおりとする。
		下 衣	地質
	制式		長スボンとし、両ももの側面に各1個の袋なし貫通式ポケットを付け、中央をボタンで留める。 すそは、シングルとする。 腰部の前後にズボンつり留めを付ける。 形状は、第9図2のとおりとする。
	女 性 用	地質	白色の防水性合成繊維
制式		ロングコート型とする。 剣襟とし、頭きんを付ける。 側腹部の左右に各1個のふた付きポケットを付ける。 そでは、長そでとし、そで口の内側には、手首布を付ける。 肩当て及び肩章を付ける。 左の肩先の下部に腕章つりを付ける。 胴にバンドを付ける。 形状は、第9図3のとおりとする。	
		胸章	男性用の雨衣の胸章と同様とする。
消 防 団 員 手 帳			表紙は、黒色の革製又はこれに類するものとする。 表紙の中央の上部に消防団き章を、その下に「京都市消防団員手帳」の文字を、それぞれ金色で表示し、表紙の内側には、消防団員証入れを付ける。 用紙は、恒久用紙と記載用紙とに分け、恒久用紙は表紙に固定し、記載用紙は差し換え式とする。 形状及び寸法は、第10図のとおりとする。
手 袋	白 手 袋		白色の布地で、5本指とし、留め金を付ける。
	作 業 用 手 袋		黒色の革製で、5本指とする。
消 防 団 長 き 章			金属製とし、日章は白色、その内側に水色の帯状の地色に文字を金色で表し、中央は赤色の円状の地色に金色の市章及び消防団章を表した七宝焼とする。 形状及び寸法は、第11図のとおりとする。
消 防 団 員 き 章			金属製とし、地色は白色、消防団章は赤色、市章は紺色の七宝焼とする。 形状及び寸法は、第12図のとおりとする。
か ば ん			黒色の革製又は合成皮革製のショルダーバッグとする。 形状は、第13図のとおりとする。
付 属 品	所 属 名 札		黒色の硬質地とし、上下に黄色で所属する消防団及び分団を明示する文字を入れる。ただし、団長及び副団長は、所属する消防団を明示する文字のみとする。 形状及び寸法は、第14図1のとおりとする。
	帽 雨 覆 い		透明のビニール地で、なな子織までの覆いとし、ひもで留める。
	腕 章		布地とし、形状、色及び寸法は、第14図2のとおりとする。

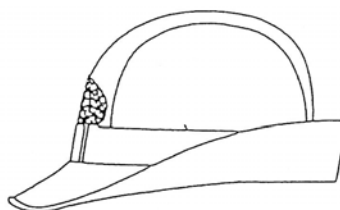
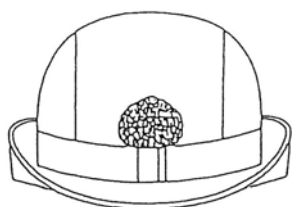
第1図 合冬帽（数字は寸法を示し、単位はミリメートルとする。以下同じ。）

1 (1) 制式

(男性用)



(女性用)



(2) あごひも留め用消防団き章

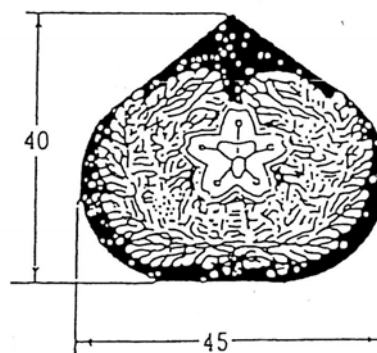


2 帽章

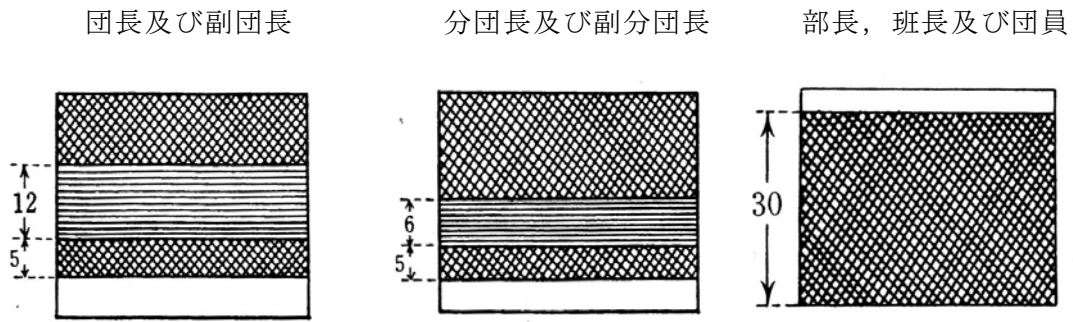
(男性用)



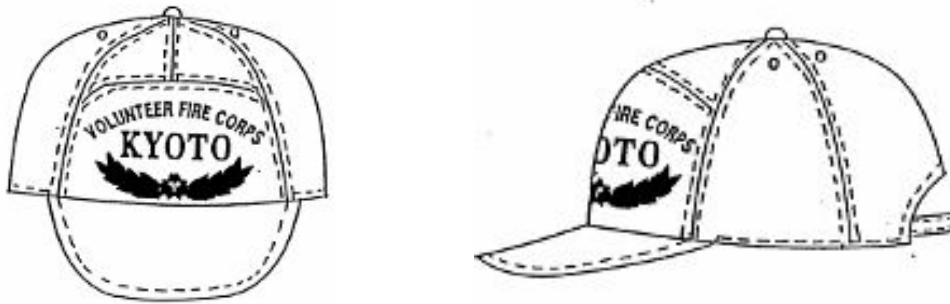
(女性用)



3 周章

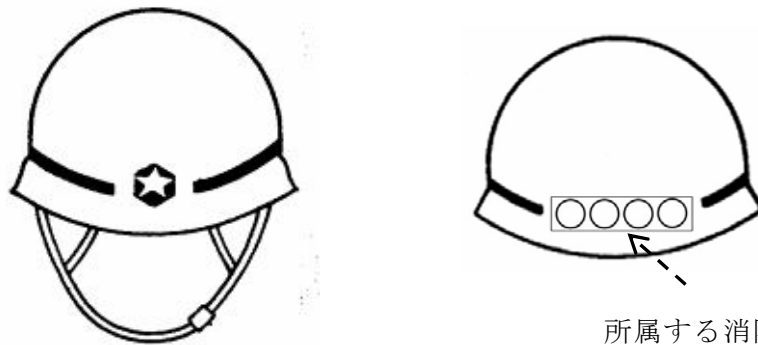


第2図 活動帽制式



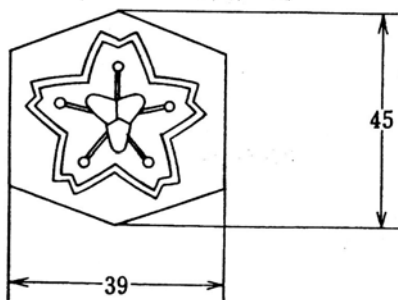
第3図 保安帽

1 制式


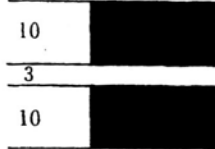







所属する消防団又は分団を明示する文字

2 帽章



3 周章

階 級	周 章
団 長	
副 団 長	
分 団 長	
副 分 団 長	
部 長	
班 長	
団 員	

第4図 合冬服

1 上衣

(1) ア 制式

(男性用)

前 面

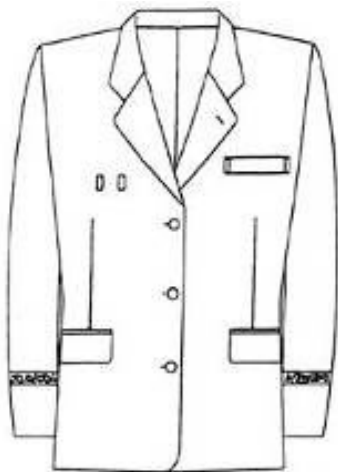


後 面

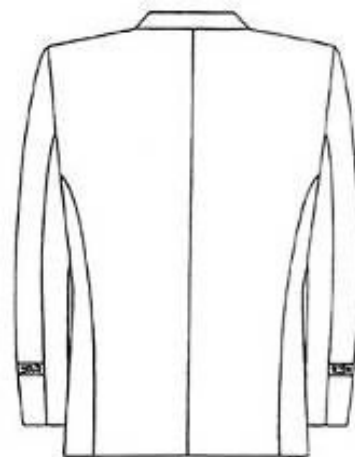


(女性用)

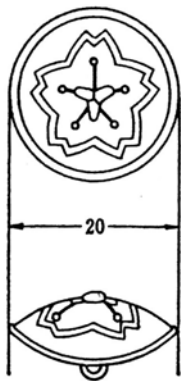
前 面



後 面



イ ボタン



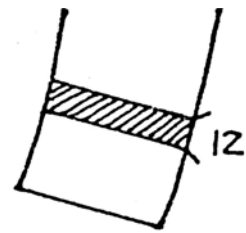
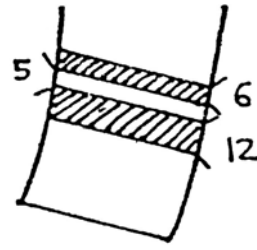
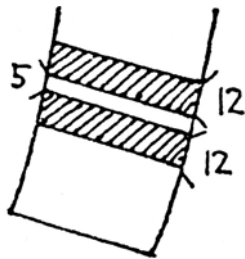
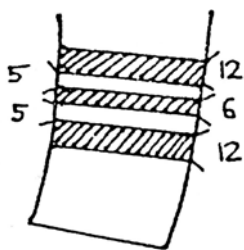
(2) そで章

団 長

副団長

分団長及び副分団長

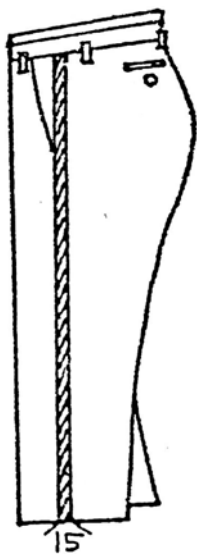
部長，班長及び団員



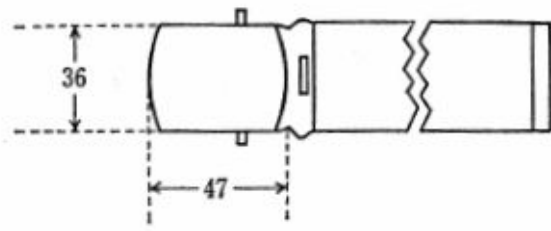
2 ズボン制式

(男性用)

(女性用)



3 バンド



第5図 夏服

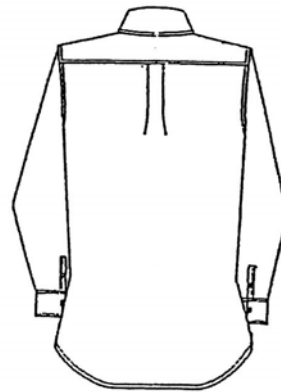
1 上衣制式

(男性用) (長そで)

前 面



後 面

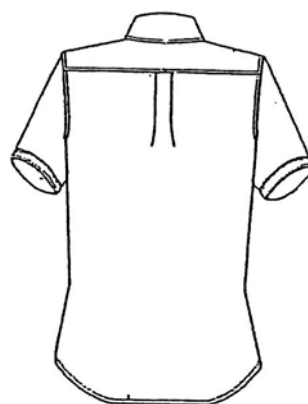


(半そで)

前 面

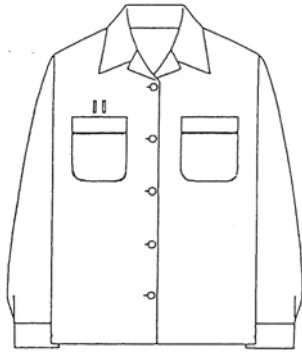


後 面

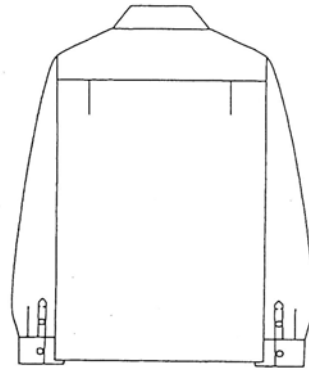


(女性用) (長そで)

前 面

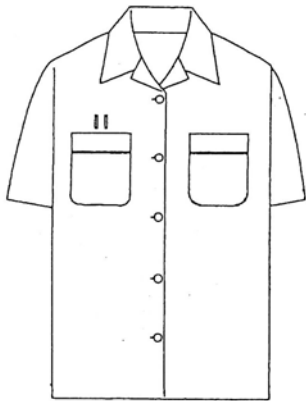


後 面

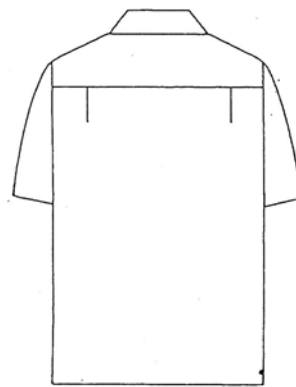


(半そで)

前 面

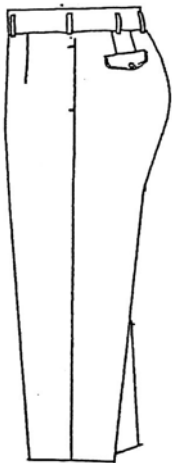


後 面



2 ズボン制式

左側面

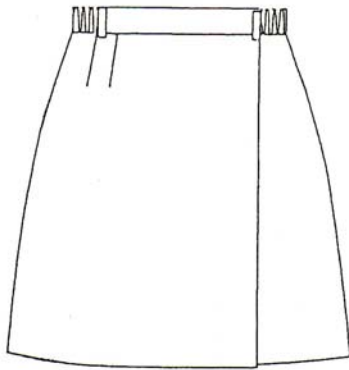


右側面

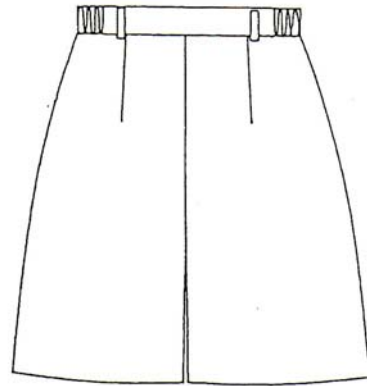


3 スカート制式

前 面



後 面



第6図 活動服

1 上衣制式

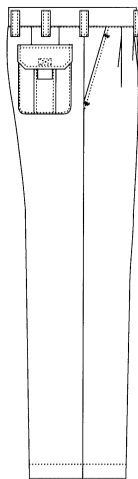
前 面



後 面

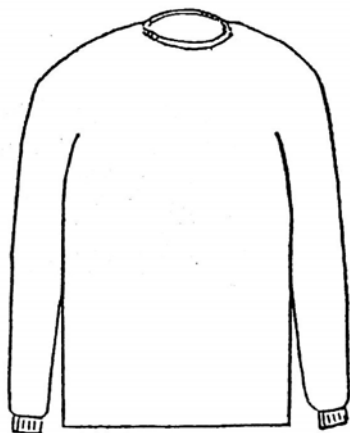


2 ズボン制式

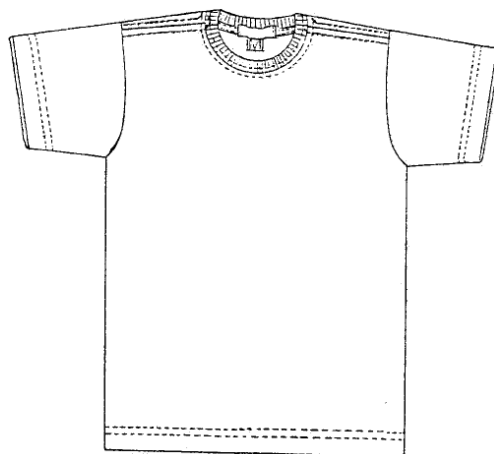
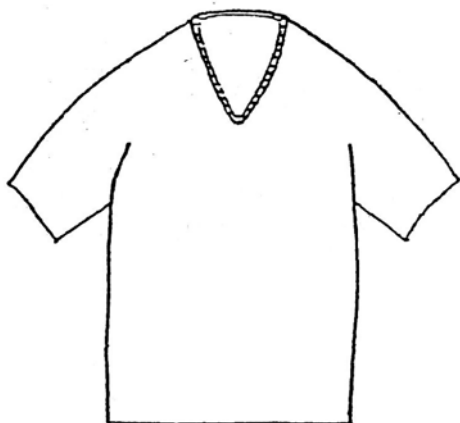


3 活動用下衣

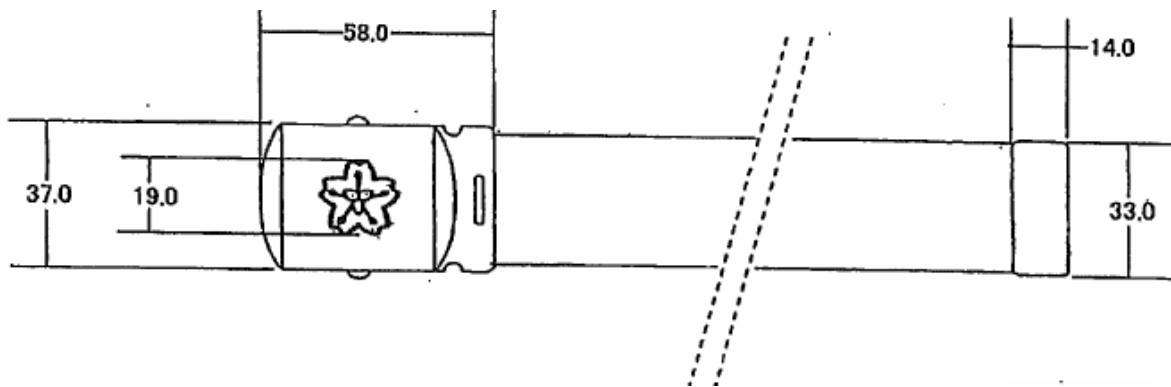
(1) 長そで制式



(2) 半そで制式



4 活動服用バンド



5 エンブレム



消防団名を明示する文字

6 所属章

団長及び副団長を除く団員



分団名を明示する文字

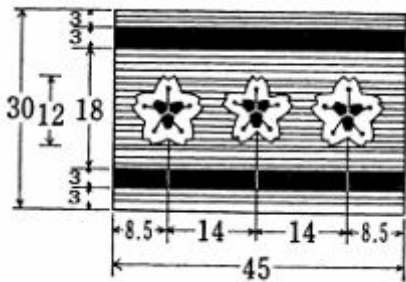
団長及び副団長



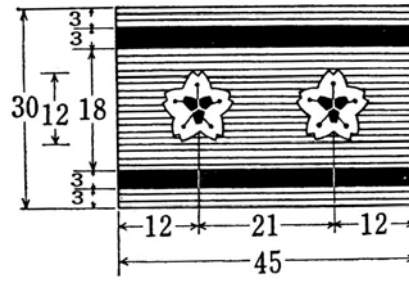
消防団名を明示する文字

第7図 階級章

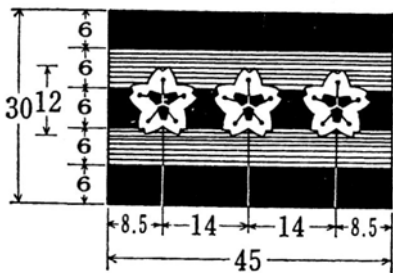
団 長



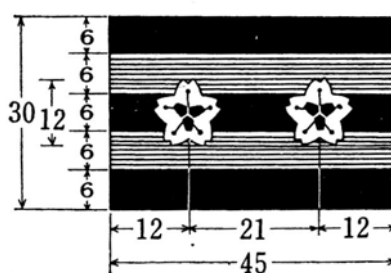
副 団 長



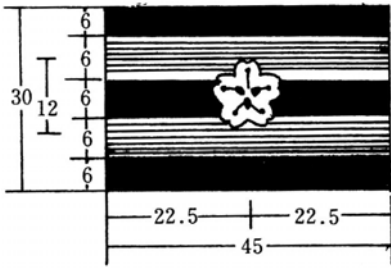
分 団 長



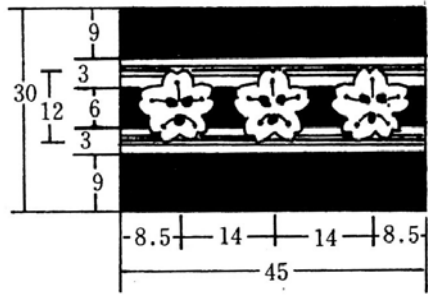
副 分 団 長



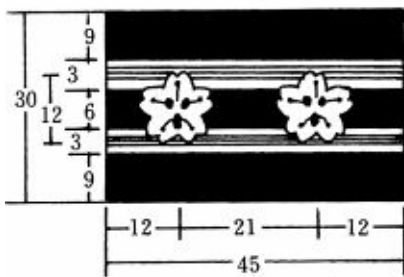
部 長



班 長



団 員

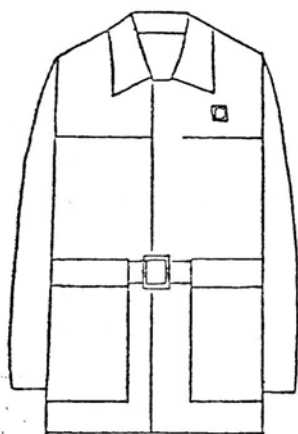


第8図 防寒衣

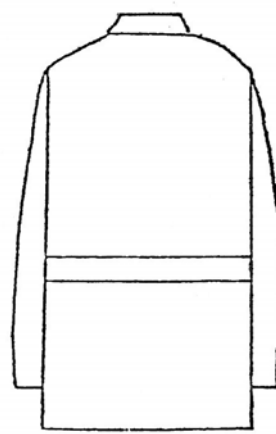
1 男性用

(1) 制式

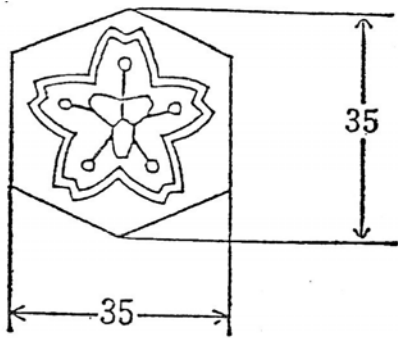
前 面



後 面

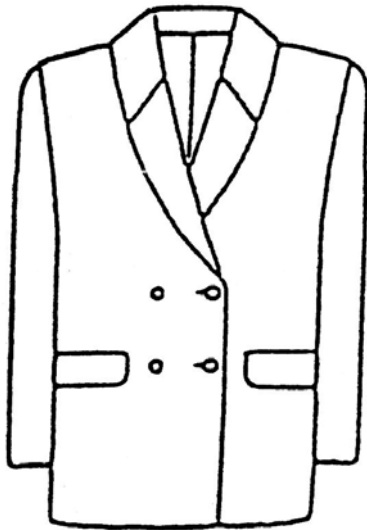


(2) 胸章

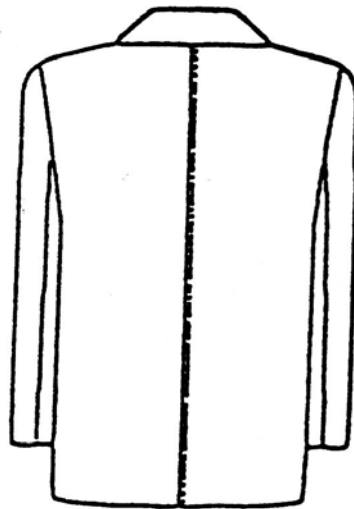


2 女性用

前 面



後 面

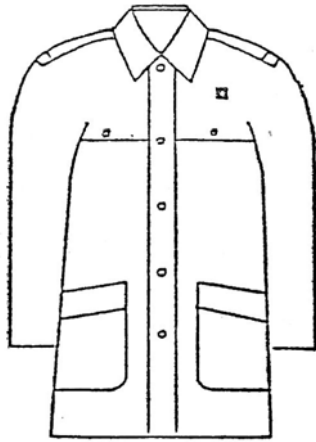


第9図 雨衣

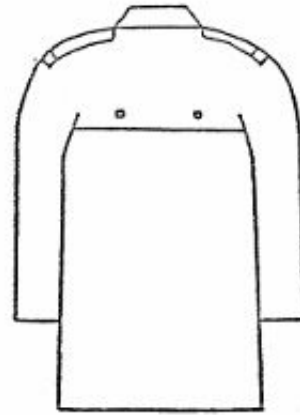
1 上衣

(1) 制式

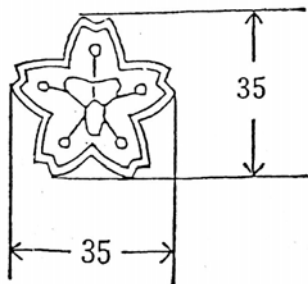
前 面



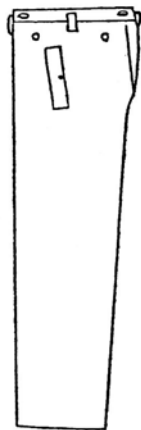
後 面



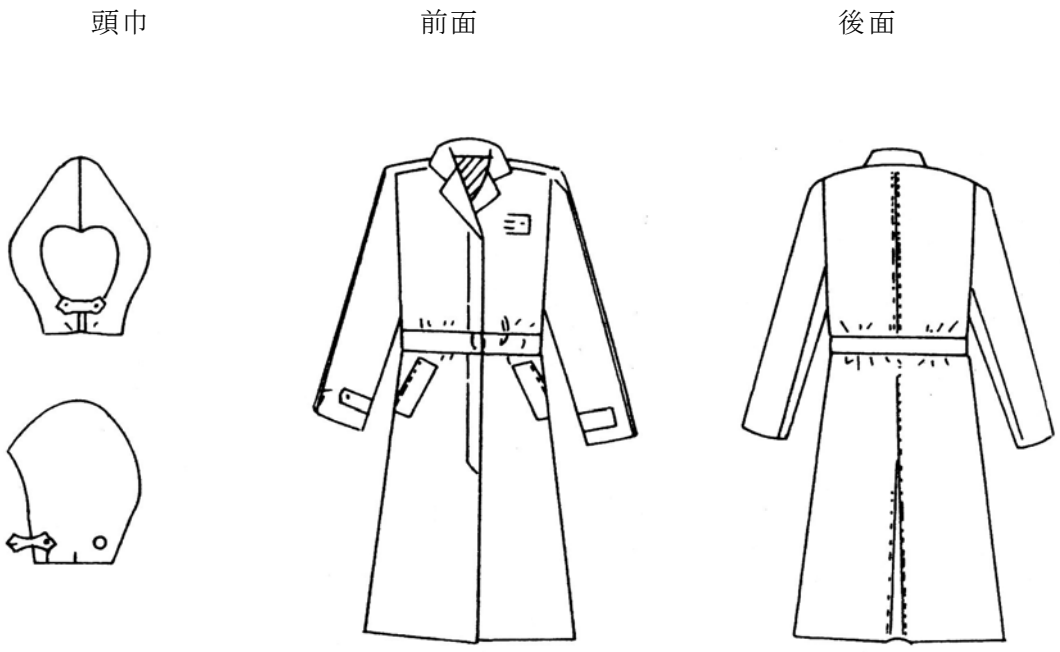
(2) 胸章



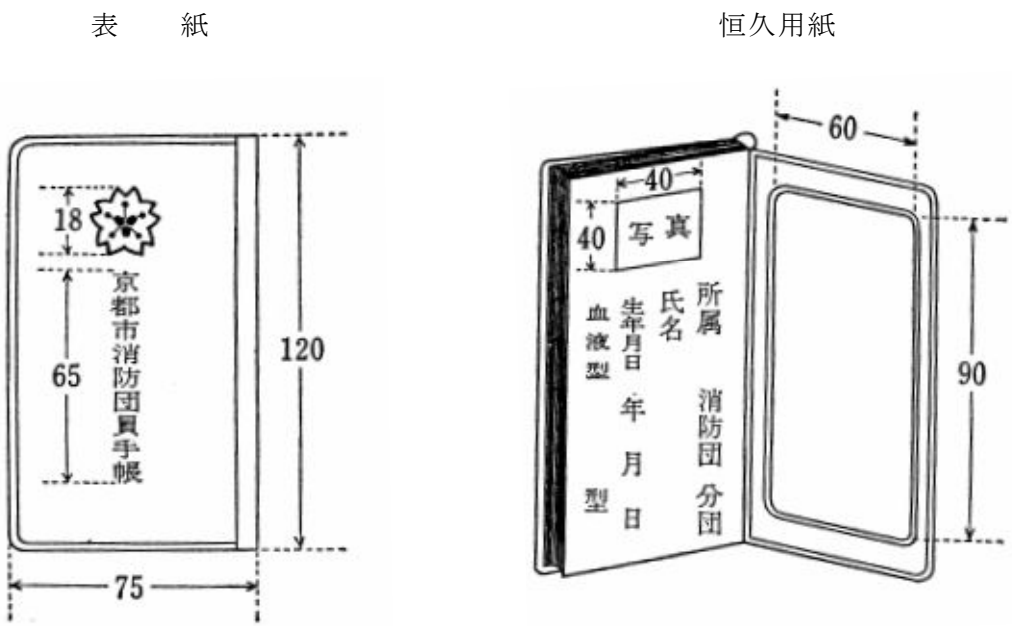
2 ズボン制式



3 女性用制式

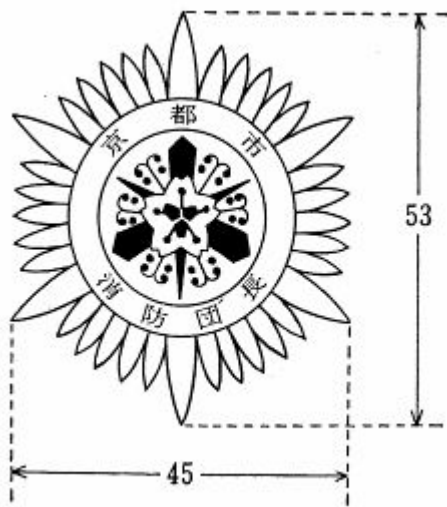


第10図 消防団員手帳



第11図 消防団長き章

表 面



裏 面

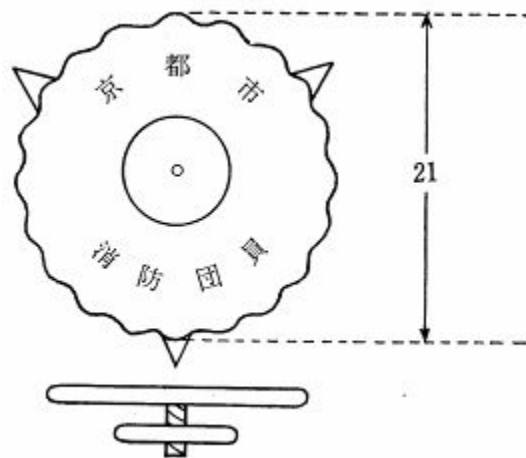


第12図 消防団員き章

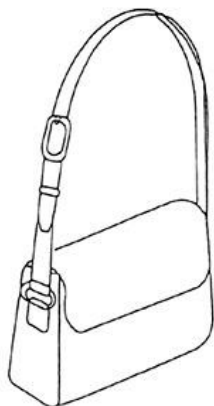
表 面



裏 面



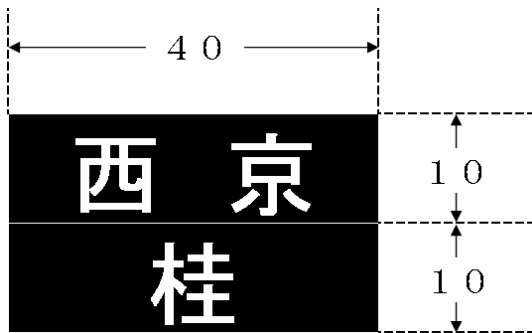
第13図 かばん



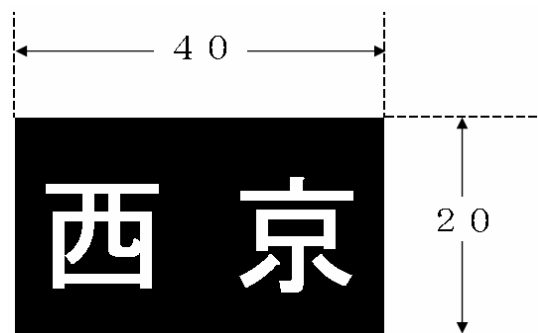
第14図 付属品

1 所属名札

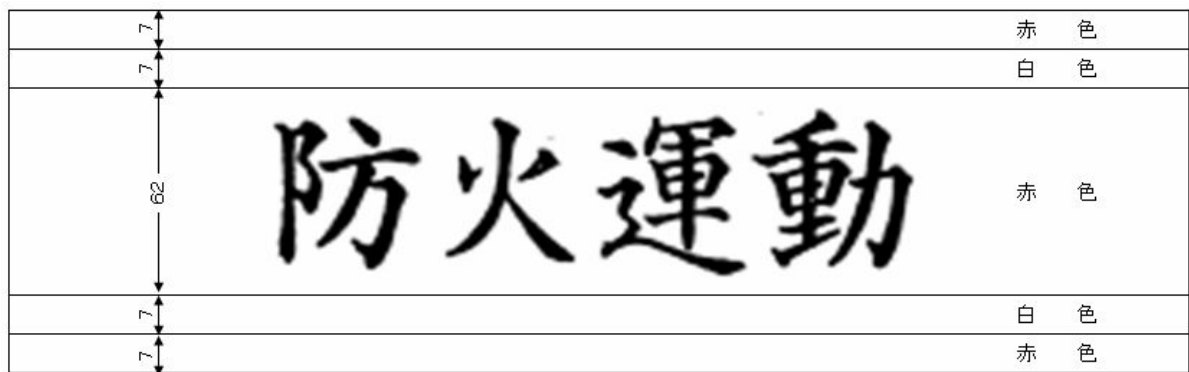
団長及び副団長を除く団員



団長及び副団長



2 腕章



備考 「防火運動」の文字は、白色とする。

別表第 2 (第 2 条関係)

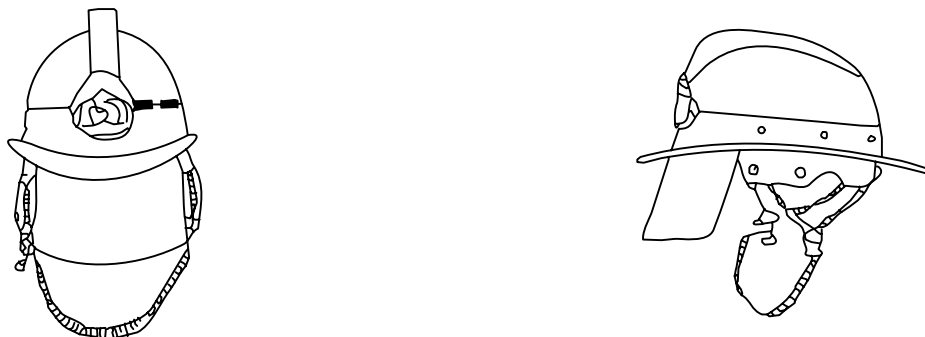
防火帽	地 質	青色の硬質地
	制 式	かぶと型とし，前後部にひさし，内部に頭部の衝撃を防ぐ装置を付ける。 顔面保護板，しころ及びあごひもを付ける。 形状は，第 1 図 1 のとおりとする。
	帽 章	帽の前面に，銀色の消防団き章を金色の桜で囲んだ標票を付け，後面には，分団名を明示する文字を入れる。 標章の形状及び寸法は，第 1 図 2 のとおりとする。
	周 章	帽の腰周りに，1 条の赤色の線を入れる。 形状及び寸法は，第 1 図 3 のとおりとする。
防火衣	地 質	銀色の耐熱性防水布地
	制 式	折り襟，シングルとし，掛け合わせに，フック 3 個を 1 行に付ける。 側腹部の左右に各 1 個のふた付きポケット付け，後面の下部中央に箱ひだを付ける。 胴には，バンドを付ける。 左肩に肩掛けバンドを付ける そでは，長そでとし，そで口に締付バンドを付け，そで口の内側に水切りを付ける。 締付バンド上方には，1 条の青色反射テープを巻く。 形状は，第 2 図のとおりとする。
訓練用防火帽	地 質	濃紺メタリック色の硬質地
	制 式	かぶと型とし，前後部にひさし，内部に頭部の衝撃を防ぐ装置を付ける。 顔面保護板，しころ及びあごひもを付ける。 形状は，第 3 図のとおりとする。
	帽 章	帽の前面に，銀色の消防団き章を金色の桜で囲んだ標票を付け，帽の左右の側面に，「消防団」の文字を銀色の反射材で入れる。 標章の形状及び寸法は，第 1 図 2 のとおりとする。
	周 章	防火帽と同様とする。
訓練用防火衣	地 質	紺色の導電性を有する難燃性の布地とし，襟，肩及び腕にオレンジ色を配する。
	制 式	平折襟とし，掛け合わせにファスナーをつける。 胸部の左及び側腹部の左右に雨ぶた付きポケットを付ける。 胴には，ベルトを付ける。 胸部の左右，後面の中央，すそ及びそでに反射布を縫い付ける。 後面の上部に，「VOLUNTEER FIRE CORPS」及び「KYOTO」の文字をオレンジ色の反射材で入れる。 形状は，第 4 図のとおりとする。
防火靴	地 質	銀色の耐熱性ゴム地
	制 式	ひざカバー，つりバンド付き長靴とする。

安全ベスト	地質	灰色の合成繊維	
	制式	ベスト型とし、掛け合わせにボタン2個を1行に付ける。 後面に赤色で「消防団」の文字を入れる。 形状は、第5図1のとおりとし、図中斜線部分に反射布を付ける。	
	胸章	左胸の上部に、黄色の消防団き章を付ける。 形状及び寸法は、第5図2のとおりとする。	
合冬服	上衣	地質	白色の布地
		制式	襟は、詰め襟、紺色とし、襟端に1条の赤色の線を入れ、掛け合わせに、ファスナーを付ける。 前面は、右肩先から左腰部にかけて、後面は、左肩先から右腰部にかけて、両端に1条の赤色の線を付けた1条の紺色の帯を入れる。 そで口及びすそは、紺色とし、そでに1条の赤色の線を入れる。 肩章は、紺色とし、周囲に1条の赤色の線を入れ、外側の端を肩の縫い目に縫い込み、襟側の端を金色のボタンで留める。 形状は、第7図1(1)のとおりとする。
	スカート	地質	赤色の布地
		制式	前面及び後面に、ひだ奥を紺色としたボックスプリーツ各2本を入れる。 形状は、第7図1(2)のとおりとする。
夏服	上衣	地質	白色の布地
		制式	襟は、詰め襟、赤色とし、襟端に1条の紺色の線を入れ、掛け合わせに、ファスナーを付ける。 前面は、右肩先から左腰部にかけて、後面は、左肩先から右腰部にかけて、両端に1条の紺色の線を付けた1条の赤色の帯を入れる。 そで口は、赤色とし、そでに1条の紺色の線を入れる。 すそは、紺色とする。 肩章は、赤色とし、周囲に1条の紺色の線を入れ、外側の端を肩の縫い目に縫い込み、襟側の端を金色のボタンで留める。 形状は、第7図2(1)のとおりとする。
	スカート	地質	白色の布地
		制式	前面及び後面に、ひだ奥を赤色としたボックスプリーツ各2本を入れる。 形状は、第6図2(2)のとおりとする。
京都市カラーガード隊被服	上衣	地質	赤色の布地
		制式	ジャンパーとし、掛け合わせにファスナーを付ける。 後面に愛称を明示する白色の文字を入れる。 形状は、第6図3(1)アのとおりとする。
	ズボン	地質	赤色の布地
		制式	長ズボンとし、両ももの側面に各1個のポケットを付ける。 すそは、シングルとする。 右ポケットの下部に、愛称を明示する白色の文字を斜めに入れる。 形状は、第6図3(2)アのとおりとする。

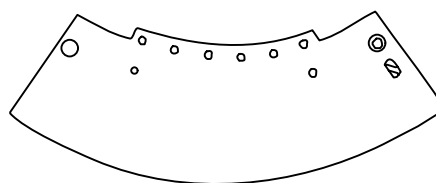
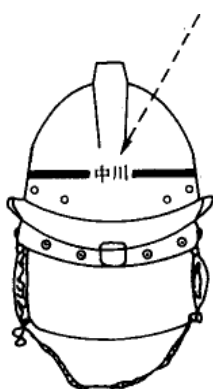
夏用 訓練服	上 衣	地 質	白色の布地
		制 式	開襟とし、掛け合わせにボタンを1行に付ける。 後面に、愛称を明示する紺色の文字を入れる。 形状は、第6図4(1)アのとおりとする。
	ズ ボン	地 質	赤色の布地
		制 式	半ズボンとし、前面の右下部に、愛称を明示する白色の文字を入れる。 形状は、第6図4(2)アのとおりとする。
演 技 用 下 衣		白色又は紺色のアンダースコートとする。	
合 冬 帽	地 質	白色の布地	
	制 式	アーミーキャップ型とし、帽の両面に赤色及び紺色の二重飾り帯を付ける。 形状は、第6図5のとおりとする。	
夏 帽	地 質	合冬帽と同様とする。	
	制 式		
靴	長 靴	白色の革製とし、外側面にファスナーを付ける。	
	訓 練 靴	白色の運動靴とする。	
手	袋	白色の布地で、5本指とし、留め金を付ける。	
靴	下	肌色で化学繊維製とする。	
機 甲 分 団 ベ ス ト	地 質	オレンジ色のナイロンメッシュ	
	制 式	ベスト型とし、掛け合わせにマジックファスナーを付ける。 後面の上部に「機甲分団」、下部に「京都市」と黒色で文字を入れる。 形状は、第7図のとおりとし、図中斜線部分に白色の反射布を付ける。	

第1図 防火帽（数字は、寸法を示し、その単位はミリメートルとする。以下同じ。）

1 制式

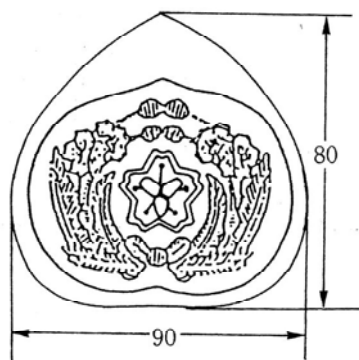


分団名を明示する文字





しころ

2 帽章



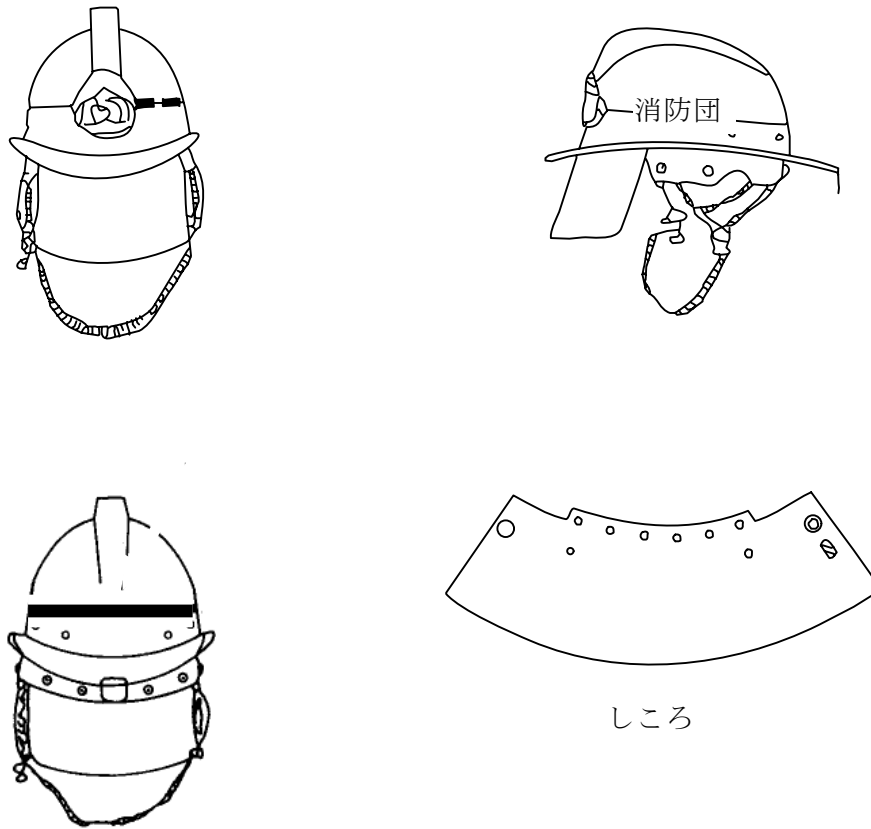
3 周章

区分	周章
指揮者	10 
隊員	5 

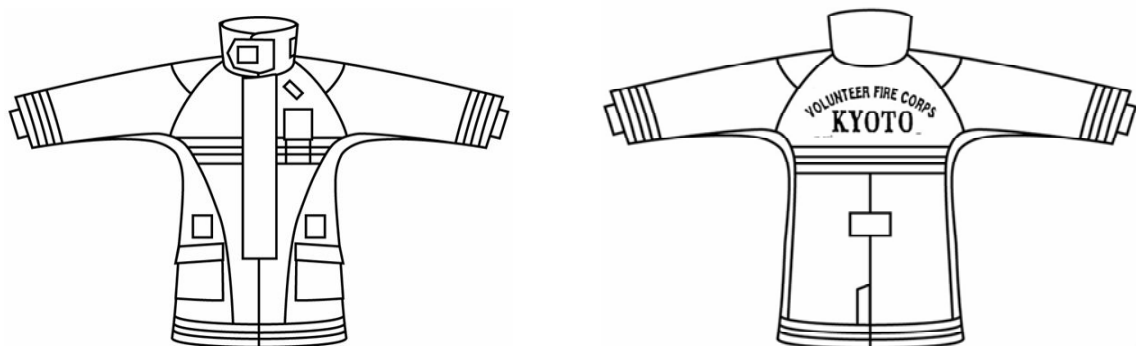
第2図 防火衣制式



第3図 訓練用防火帽制式

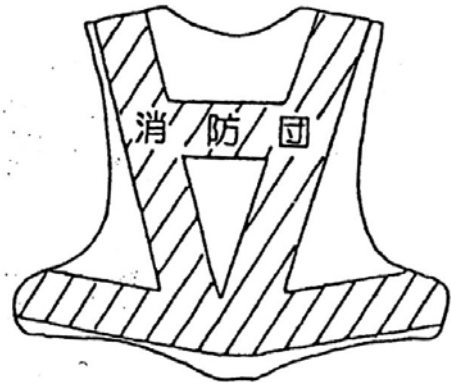
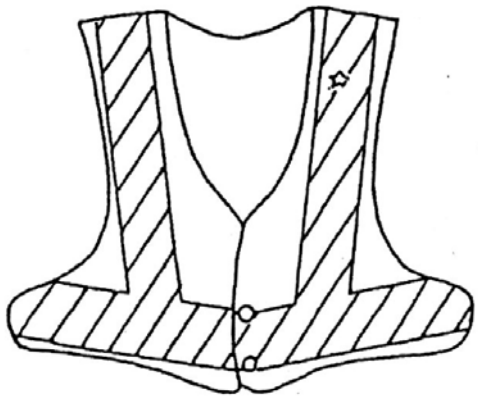


第4図 訓練用防火衣

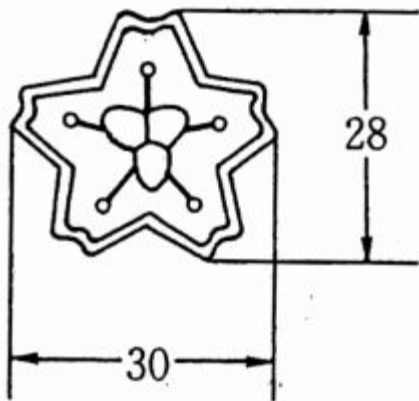


第5図 安全ベスト

1 制式



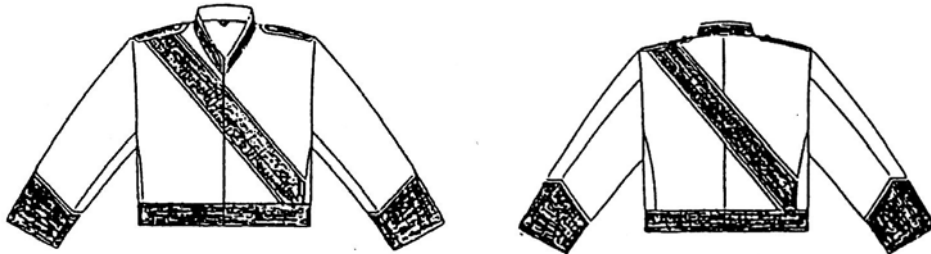
2 胸章



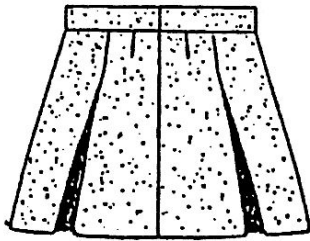
第6図 カラーガード隊被服

1 合冬服

(1) 上衣制式

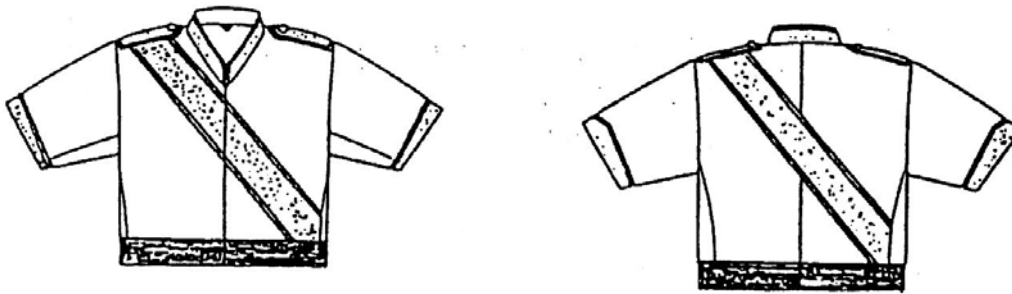


(2) スカート制式

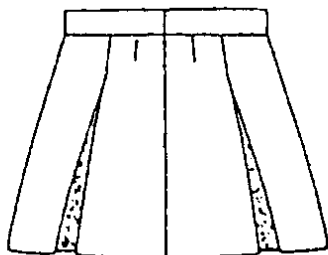


2 夏服

(1) 上衣制式



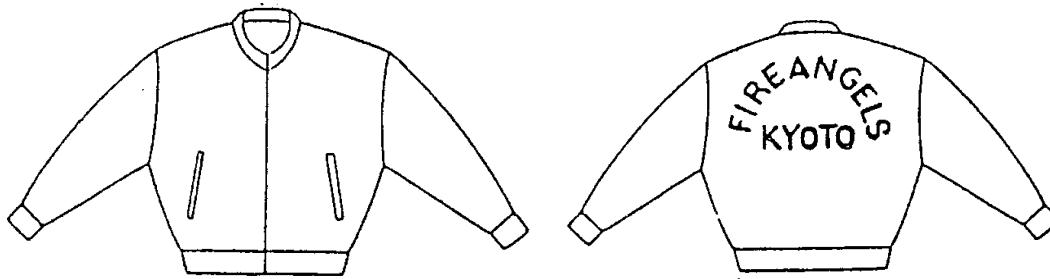
(2) スカート制式



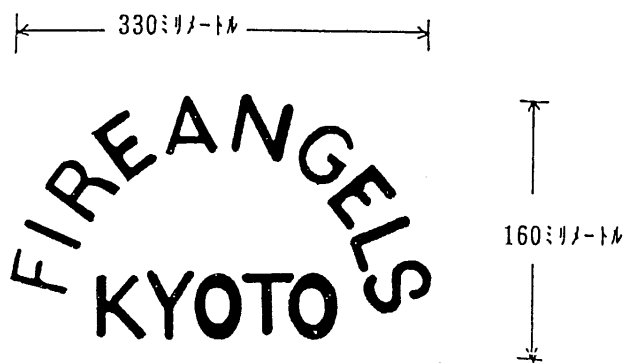
3 訓練服

(1) 上衣

ア 制式



イ 愛称を明示する文字



(2) ズボン

ア 制式



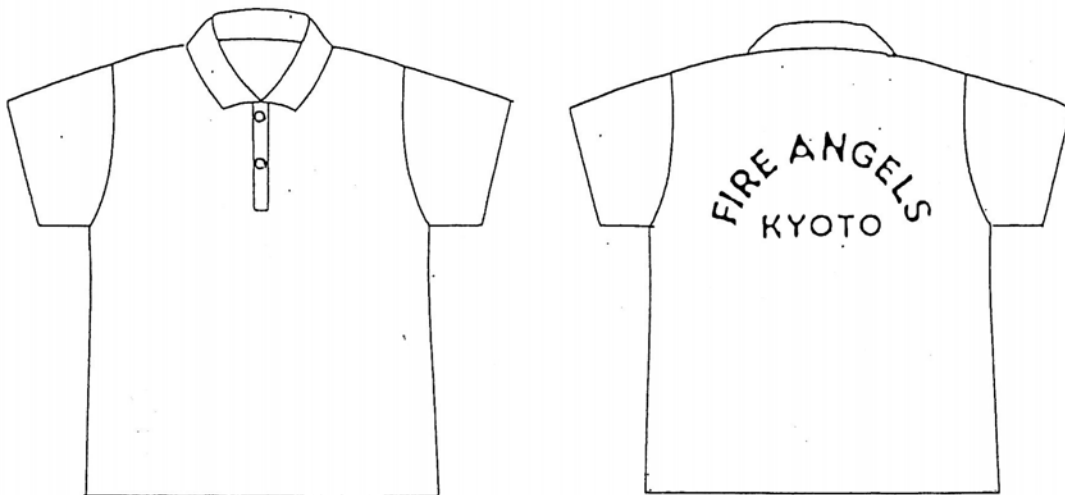
イ 愛称を明示する文字



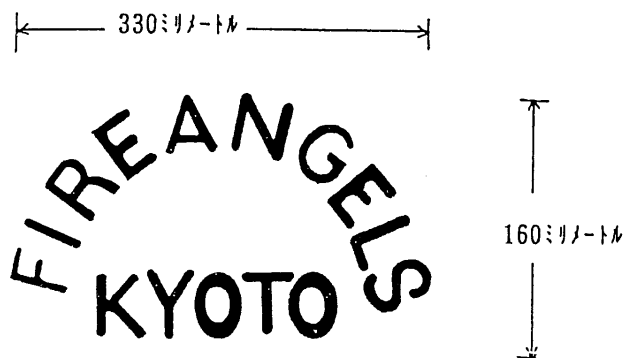
4 夏用訓練服

(1) 上衣

ア 制式

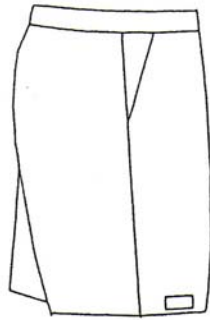


イ 愛称を明示する文字



(2) ズボン

ア 制式



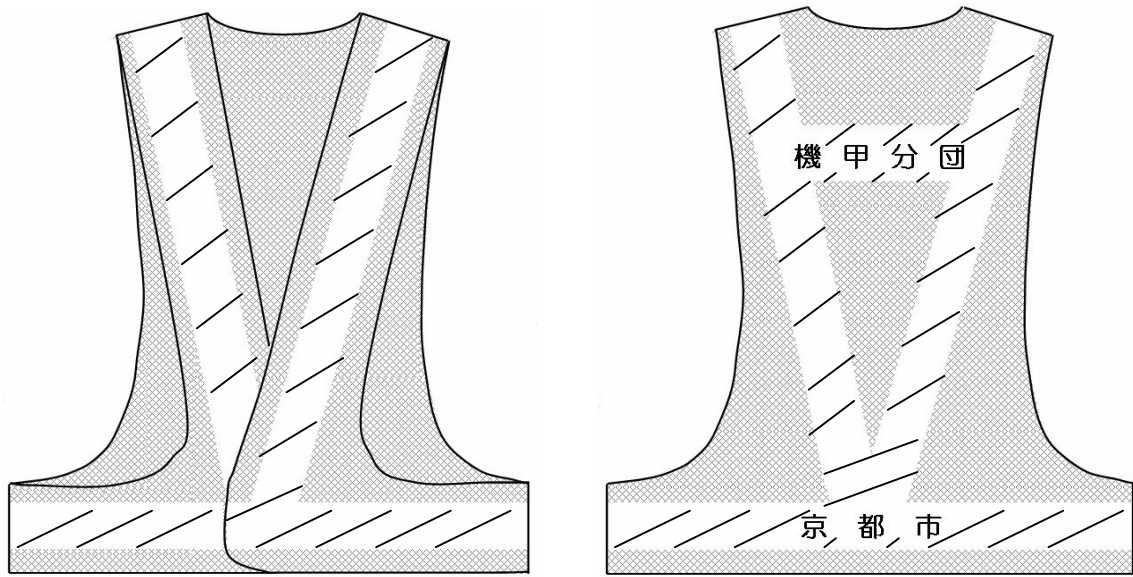
イ 愛称を明示する文字



5 合冬帽制式



第7図 機甲分団ベスト制式



附 則

この訓令は，平成22年1月10日から施行する。

(消防局総務部庶務課)